

赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



起動！西の湖プラットフォーム 西の湖カレンダー完成報告会

2月18日、西の湖すてーしょんで西の湖プロジェクト主催「西の湖カレンダー完成報告会」が行われました。西の湖カレンダーとは、自然資源あふれる西の湖の魅力をよりたくさんの人に知ってほしいという、市民団体により完成したウェブサイトです。四季折々楽しめるイベントの紹介や、県立大学の学生が魅力を伝える「西の湖調査探検隊」クイズ、ぬりえコーナーなど、幅広い世代が理解を深め楽しめます。来賓の江南仁一郎副市長は「長年課題となっている西の湖の環境整備や観光誘致について、新たな光が見え非常に喜ばしい」と祝辞を述べていました。

赤こんりポート

東恵子リポーター



滋賀のええとこ かるたで発見！

県内の名所や名物、文化などをかるたにし、遊びながら故郷・滋賀を知ろうという「滋賀コレかるた」の地域活性プロジェクト。この活動に賛同した奥井グループ（奥井敦史代表）が2月22日、八王子保育園（島町）の全児童に1人に1つつかるたをプレゼント。年長クラス24人で行われた大会が開かれました。「こんにやくも まっ赤が好きと 信長さん」など、易しく学べる読み札と愛らしいイラストが特長です。子どもたちは「ばあばが（おうちに）来てくれるから一緒に遊ぶよ」などと、うれしそうでした。かるたは白鷺こども園にも贈られました。



赤こんりポート

馬場利男リポーター



節分の面作り

北里学区まちづくり協議会の子どもみらい部会主催で、就園前の0歳から3歳までの地域の子どものとその保護者を対象とした親子のイベント（おひさま広場）が、1月19日にふれあいホールで開催されました。

カップ麺の容器に色紙や毛糸を使った鬼の面作りを、子どもたちと保護者が一緒に取り組みました。出来上がった面を子どもたちがかぶり、記念撮影。短い時間でしたが、地域の保護者同士のふれあいの場が広がっていました。

赤こんりポート

今井良治リポーター



老人クラブと6年生がコラボし 縄跳びジャンプ台が完成

岡山学区老人クラブ連合会の有志が、社会貢献の一環で子どもたちが縄跳びを楽しく練習できるようにと、ジャンプ台3台を約1か月かけ製作し、岡山小学校に寄贈。さらに学校では、6年生の児童が卒業記念にと、クラスごとに1台ずつ思いの絵を描き上げ、3月9日にお披露目されました。絵のデザインは、バーチャルシンガーのキャラクター、うさぎと「深い絆と友情」が花言葉の朝顔、映画のアニメキャラクター。下絵描きからペンキ塗りまで、ていねいに仕上げました。集まった老人クラブのメンバーや6年生の児童は「在校生たちに楽しく縄跳びを飛んでもらえれば」と仕上がりに目を細めていました。

2月25日



「静かな戦い」ゴールボール体験会

市運動公園体育館で、市民を対象にゴールボール体験会が開催され、60人が参加しました。

1980年からパラリンピックの正式種目となっているゴールボールは、アイシェードと呼ばれる目隠しを装着し、足音やわずかな振動、鈴入りのボールから鳴る音を頼りに、攻撃と守備に分かれて行うスポーツです。この日の体験会で講師を務めた滋賀県ゴールボール協会会長・西村秀樹さんは「ゴールボールは視覚障がいについて知るチャンス。体験会が子どもたちに障がい者のことを知ってもらうきっかけになれば」と話していました。市では今後も教室や体験会など、ゴールボールに触れる機会を予定しています。

2月27日・28日



本市の新たな価値を発見する ディスカバリープログラム in 近江八幡

立命館大学BKC地域連携課が、体験型SDGs学習プログラムの開発に向けた「ディスカバリープログラム in 近江八幡」を企画し、同学の学生や職員が市内でフィールドワークを行いました。市内企業の協力を得て、1日目はものづくりに込めた地域や自然への想いを学び、森づくり（植樹）を体験しました。2日目には、西の湖での淡水真珠の養殖現場視察や、水郷めぐりを通じて、西の湖の魅力や現状について学びました。学生からは「1つ1つは専門的な内容でも、それぞれが繋がって魅力になることを伝えたい」などの意見が出ました。

2月25日～3月12日



沖島で地域おこし協力隊として活躍した 川瀬明日望さんが卒業展を開催

地域おこし協力隊として3年間の任務を終えた川瀬明日望さんが、これまでの島暮らしで見た沖島の日常や漁師の仕事、湖上の情景を写真や映像で表現し、活動を振り返る卒業展「沖島移住日誌」を開催しました。

これまで川瀬さんは、島の食材や湖魚でメキシコ料理の創作メニューを提供する「琵琶湖と、タパス。」のイベント出展や、SNSを使った島や湖魚の魅力発信に取り組んできました。川瀬さんは「外から見ただけでは伝わらない、実際に暮らしたことで見た島の魅力を感じてほしい。そして、島の人たちから受けた恩や私の想いが、展示を通じて人から人へと伝わり広がってほしい」と話していました。

3月9日



ヨシ刈りで 地元へ恩返し

安土中学校の3年生107人が3月14日の卒業を前に、これまで積み重ねてきたふるさと学習のまとめとして、西の湖のヨシ刈りを行いました。

この活動は、お世話になった安土に感謝し、地域の良さと環境保全の大切さを再認識するために、地域貢献活動として行ったもの。子どもたちは、鎌の使い方やヨシ原の歩き方、ヨシとオギの違いを指導者から習ったあと、鎌で刈ったヨシを集めてひもで束ね、ヨシ原の移動に苦戦しながら汗を流しました。子どもたちは「ヨシに実際に触れることで、ヨシが環境上で重要な役割を果たしていることができた」「貴重な経験ができて楽しかった」など、体験した喜びを話していました。